

事業名	令和2年度ワカメ養殖概況(増養殖技術研究)
予算区分	県単
事業実施期間	平成12年度～
担当者	(環境増養殖担当)笠井謙太郎, (海洋生産技術担当)多田篤司
共同研究機関等	
<p>&lt;目的&gt; 令和2年度の徳島県内のワカメ養殖概況及び種苗の有償配布状況についてとりまとめる。</p> <p>&lt;結果&gt;</p> <p><b>種苗生産～育苗</b></p> <p>気象庁の地域気象観測システムの観測地点”徳島”では、令和2年度は、猛暑日(最高気温が35℃以上の日)が14日観測され、2000年以降最も多い年となった。しかし、猛暑による陸上水槽内の種苗の生育不良は報告されなかった。</p> <p>海面での育苗(仮沖出し)は、例年どおり10月15日前後に実施された。小鳴門海峡に位置する水産研究課鳴門庁舎の汲み上げ海水温は平年並み～やや低めに推移し、育苗開始目安の23℃を10月20日に下回った(図1)。種苗生産及び育苗は、一部を除き順調であった。</p> <p><b>本養殖</b></p> <p>本養殖は播磨灘側を皮切りに例年どおり11月上旬から順次開始された。種苗生産及び育苗が比較的順調であったため、種苗が不足することはなかった。</p> <p><b>食害</b></p> <p>育苗中の10月からアイゴの当歳魚～全長30cm個体が本県沿岸各地で多数目撃された。10月下旬には、小鳴門海峡の定点に設置した間欠駆動式カメラに、アイゴがワカメ種苗を食べる様子が撮影され、11月中旬をピークに、12月上旬まで頻繁に出現した。12月中旬からはクロダイの出現頻度も上がったため、鳴門海峡・小鳴門海峡の多くの漁業者は、本養殖開始後の種苗の差し直し作業に追われた。</p> <p><b>色落ち</b></p> <p>育苗中の10月中旬に、色落ち発生日目安となるDIN濃度2<math>\mu</math>mol/L未満となり、11月に回復傾向が見られたが、大型ケイ藻(コシノディスカス・ワイレシー及びユーカンピア)が長期間高密度でみられ、1月上旬には再び2<math>\mu</math>mol/L未満となった。その結果、色落ちが県内各地で発生し、1月中旬以降に行われる「早採り」もほとんど行われなかった(図2)。重度の色落ちのため、漁場によっては歩留まりが半分程度の地区も少なくなかった。</p> <p><b>生長・品質及び生産量</b></p> <p>食害被害の長期化、貧栄養が続いたことによる色落ち、付着物(コケムシ、ヒドロ虫類)の多さ、藻体の生長が悪い事などから、令和2年度の品質及び生産量は例年を大きく下回っていると考えられる。</p> <p><b>ワカメ種苗の有償配布</b></p> <p>平成30年度より、水産研究課が開発した高水温耐性株(鳴門養殖ワカメと椿町天然ワカメの交雑株)の種苗を有償配布している。令和2年度は、県下8漁協から購入の要望があり、養殖業者全体の2割以上(50業者)が養殖に利用した。</p>	

＜次年度の計画＞

漁協・漁業者への聞き取りと情報提供，技術指導を引き続き行う。

＜結果の発表・活用状況等＞

イノベーション創出強化研究推進事業令和2年度成果検討会にて，事業構成員に情報発信（オンライン会議 R3.3.1）

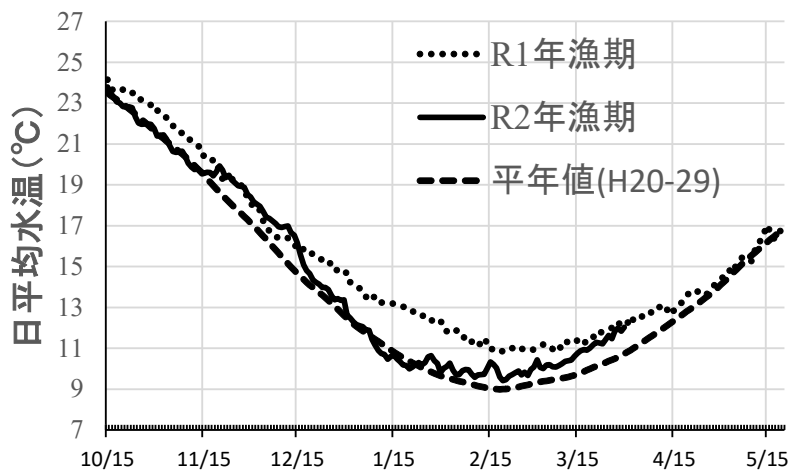


図1. 水産研究課鳴門庁舎の汲み上げ海水温の推移.



図2. 播磨灘沿岸で収穫された養殖ワカメ.

(基部SPAD値9.2, 先端SPAD値13.9 : 令和3年1月20日)